

真菌医学研究センター Monthly セミナー

平成27年12月15日(火) 16:00~17:00
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

腸管免疫の恒常性維持に於けるC型レクチンの役割

東京理科大学 生命医科学研究所 教授

千葉大学 真菌医学研究センター 客員教授

岩倉 洋一郎 博士

Dectin-1はC型レクチンレセプターの一つで、 β グルカンを認識し、真菌の感染防御に重要な役割を果たしている。 β グルカンは酵母やキノコ、海藻など多くの食品にも含まれており、Dectin-1発現細胞が腸管に見られることから、 β グルカンの腸管免疫に及ぼす影響について検討した。その結果、Dectin-1欠損マウスは潰瘍性大腸炎のモデルである、デキストラン硫酸ナトリウム(DSS)誘導大腸炎に対して耐性を示すことが解った。メカニズムを調べたところ、腸管で制御性T細胞(Treg)が増えており、これはDectin-1シグナルの欠如に伴いlactobacillusが増殖するためであった。Dectin-1シグナルを阻害する活性を持つ海藻由来のラミナリンを投与することによっても同様のTregの増加とDSS大腸炎耐性が認められた。これらの結果は、C型レクチンが感染防御だけではなく、腸管の免疫系の恒常性維持に重要な役割を果たしていることを示している。

世話人：笹川千尋（千葉大学真菌医学研究センター長・東京大学名誉教授）

連絡先：真菌センター支援係（E-mail:vab5903@office.chiba-u.jp）